

平成29年度アドバイザー派遣事業実施レポート

- 1 研究団体名 鳥取県特別支援学校
- 2 研修テーマ 病弱・虚弱の児童生徒理解や指導・支援について研修を深め、専門性の向上を図る。
- 3 実施期日 平成30年1月30日（火）
- 4 実施場所 鳥取県立皆生養護学校
- 5 アドバイザー 昭和大学大学院保健医療学研究科 准教授 副島賢和 氏
- 6 研修内容

全学部 of 授業を参観していただいた後、事例検討の時間に行った担任等との懇談の中で、病弱・虚弱の児童生徒理解や指導・支援について具体的なアドバイスをいただいた。また、「病気をかかえる子どもたちの心の理解と支援」をテーマに講義もしていただき、講義には他校から6名の参加があった。

指導助言・講義の内容

(1) 担任等との懇談での指導助言

- ・「こういう関わりの方によかった。」という事例を集めて共有するとよい。
(よかったねカンファレンス)
- ・大人に気を遣って我慢している子どもたちの心の理解と支援について
「大丈夫？」と聞かれて、本当に大丈夫な人は、「えっ？何のこと？」となる。頑張っている人は、「大丈夫です。」となる。気を遣うことはマイナスではなく、気を遣うことでその場がうまくいき、本人が楽だと感じている場合もある。苦しい時にはではなく、何にもない時に、苦しいと伝えるサインなどのルールを決めておくことよい。「助けて」と伝える力をつけておくことが大切。
- ・遠慮する子どもが物事を頼む時は、相当我慢したぎりぎりの時である。すぐに反応できるように。「こんな表情の時は、～してほしい時」など、集めて共有しておく。
- ・自分の体調に関する理解が課題である場合も、「苦しい」「辛い」を伝える力を身につけておくことが大切。サインを送ることができるように。自分で判断して伝えられたことをほめる。伝えて休憩したことで体調がよくなれば、「あそこで～できたから体調がよくなったね。すごいね。」と、フィードバックしながらほめる。
- ・自分の病気を知っていく時、モデルとなる人と出会う機会をつくるのが大切。何をどこまで知りたいかを聞き、本人が一人で受けとめるのではなく、「一緒に勉強していこうか。」と伝える。健康な人は生きていく上でモデルにたくさん出会っている。病気の子ども達は、なかなか出会えない。がんばっているモデルの姿を見ることが未来につながる。
- ・ネガティブな感情を否定してはいけない。感情に蓋をしてしまうのではなく、一旦受けとめることが大切。「そういうあなたも素敵よ。」を伝える。「こう思ってもいいんだ。」と思えることで、「助けて」と言える。「助けて」と言ってよかったという経験が大切。

- ・ネガティブな感情が出てきた時、本人の苦しみの横に座ることのできる人がいるとよい。
- ・うまくいかなかったり失敗したりした時に、いっぱいほめて、「そういうあなたも素敵よ。」と伝える。
- ・「恥ずかしい」のは素敵な気持ち、「こわい」「いやだ」は、自分の身を守るための大切な気持ちである。受けとめてから、「どうする？」と問いかける。
- ・自尊感情を高めていくことが大切。
- ・本人が他の人と同じことがしたいと願うことに対して、たくさん工夫していく。
- ・「患者さん」と見られることが多い子ども達を、「人」としてという所に戻せるように。「人」としてあたりまえの成長を保障していく。
- ・異性との関わりにおいて、いやなことに対していやだと言える力をつける。ちゃんと言えることは正しいことだと伝えておく。異性が車いすを押す時に、「僕が押そうか？」「私が押している？」と問いかけて確認してから押すなど、日頃から取り組む。断ることは失礼ではないことや助けを求めることの大切さも伝えておく。

(2) 講義 「病気をかかえる子どもたちの心の理解と支援」

- ・教師の大切な4つのかかわり（小林正幸 2009）
 - 本人の好きなこと、得意なことを探りその面で付き合うようにする。
 - 活躍の場を与える。
 - 本人が安心していられる場所をつくる。
 - 不安や緊張や怒りや嫌悪などの不快な感情を言葉で表現できるようにする。
- ・感情表出の理解（小林正幸 2009）
 - 怒り：他者や周囲に変わってほしいという「願い」
 - 悲しみ：苦境を分かち合ってほしい、助けてほしいという「訴え」
 - 喜び：誰かと分かち合うことで加速される
 - 恐怖や不安：問題があり、それを解消しなければならないという強い願い
- ・学びを保障することの大切さ
 - 学ぶことは生きること、日常を支えること、子どもにとってのあたりまえである。
- ・どんな感情も大切に、良い悪いはない。ただ、伝え方を学ぶことは必要。
 - 身近な大人が自分の感情をどれだけ大切に扱っているか、モデルとして大人が示す。
- ・不適応行動は、困っていることを伝えている。受容はするが、許容（行動の容認）はしない。

7 まとめ

病弱・虚弱の児童生徒の心の理解や指導・支援について、講師から多くの指導・助言をいただいた。感情表出の理解やつけておきたい力など、病気をかかえる児童生徒の心の理解につながる基礎的な知識や、指導支援につながる配慮事項などを学ぶことができ、とても充実した研修となった。